A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術　共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	演芸

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分

複数申請の状況(該当するものを選択してください。)　※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)
※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃ ていすいきかくしつ 有限会社　貞水企画室	団体ウェブサイトURL	
代表者職・氏名	代表取締役　小池岳士		
制作団体所在地	〒　113－0034	最寄り駅(バス停)	東京メトロ湯島駅
	東京都　文京区　湯島3－32－3		
電話番号	03－3831－1555		
ふりがな 公演団体名	ゆうげんがいしゃ　ていすいきかくしつ 有限会社　貞水企画室	団体ウェブサイトURL	
代表者職・氏名	代表取締役　小池岳士		
公演団体所在地	〒　113－0034	最寄り駅(バス停)	東京メトロ湯島駅
	東京都　文京区　湯島3－32－3		
制作団体　設立年月	平成16年11月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	浅野丈太郎、浅野ゆき子、小池将直	講談師・一龍斎貞友、一龍斎貞橘	
事務体制 (専任担当者の有無)	専任の事務担当者を置く	本事業担当者名	小池岳士
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	小池将直
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	kikaku@teisui.co.jp		

<table>
<tr><td>制作団体沿革</td><td colspan="3">2004年に有限会社貞水企画室は、講談界初の人間国宝・一龍斎貞水により設立された。
故・一龍斎貞水の意志を受け継ぎ、未来の講談界に繋ぐべく『講談普及』『講談伝承』の二つの柱を目的とし活動

『講談の普及』
貞水のことば「伝統（講談）は今の時代にもてはやされ、はじめて守ったことになる」
講談の守るべき伝統と、時代の求めに応じ変化する事柄を踏まえ、様々なアプローチで講談普及に努める。

『講談の伝承』
貞水のことば「先人から受け取った講談を後世に伝える」
文化庁の補助事業「文化財関係国庫補助事業」、講談協会主催による『伝承の会』の制作・監修・助成を行っている。この事業は『伝承』を目的に会派・門・東西の垣根を超え講談界が一つとなって
行われている。若手から中堅の講談師（受講生）とベテランの講談師（講師）を結び付け、一年間の稽古を経て発表会を行う。

『東京文化財研究所・実演記録』
※貞水のみ知る貴重な読み物（演目）を実演記録しました。</td></tr>
<tr><td>学校等における
公演実績</td><td colspan="3">講談普及のため学校公演に毎年20～40公演参加

平成21年度「本物の舞台芸術体験事業」参加作品
平成22年度「子どものための優れた舞台芸術体験事業」参加作品
平成23年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」参加作品
平成24年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」参加作品
平成25年度「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」参加作品
平成26年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品
平成27年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品
平成28年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品
平成29年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品
平成30年度「文化芸術による子供の育成事業」参加作品
令和3年度「文化芸術による子供育成総合事業」参加作品
令和4年度「文化芸術による子供育成推進事業」参加作品
令和5年度「文化芸術等総合支援事業」参加作品【A・C2区分で参加】</td></tr>
<tr><td>特別支援学校等における公演実績</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="4">参考資料の有無</td><td>申請する演目のWEB公開資料</td><td colspan="2">有</td></tr>
<tr><td>※公開資料有の場合URL</td><td colspan="2">https://youtu.be/fJALAeZwf98</td></tr>
<tr><td rowspan="2">※閲覧に権限が必要な場合のIDおよび
パスワード</td><td>ID:</td><td></td></tr>
<tr><td>PW:</td><td></td></tr>
</table>

公演・ワークショップの内容　【公演団体名　有限会社　貞水企画室　】

対象	小学生(低学年)	○
	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○
	中学生	○

企画名	「講談の世界」 ワークショップ「講談教室」 本公演「講談はじめ亭」
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	読み物は、生徒さんのご様子や反応を見て、公演当日、厳密には高座に上がってその場で選択をします。 ※講談では演目を「読み物」といいます。 ＜ワークショップ＞では いろいろなジャンルの講談の特徴的な一節をご披露 ＜ワークショップ→本公演＞では 連続講談 「海賊退治」「宮本武蔵」など決闘シーン（立ち回り）のある読み物 本来は一席の読み物を途中のいいところで切って、後半は本公演に ＜本公演＞では 連続講談「海賊退治」や「宮本武蔵」など 学校ニュース講談（創作） 上方講談 怪談噺 ※ワークショップから本公演で、様々なジャンルの講談をご覧いただけます。 ※別添①参照 公演時間　75　分

著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	

演目概要	**当プログラムは過去通算12か年度参加した同事業A区分の企画を基にC区分の条件（少人数・WS・本公演同日開催）に合わせ、要点をまとめ、公演規模を縮小して制作した企画です。** ※別添②参照
演目選択理由	これからの日本を担う子供たちに、日本の伝統話芸・講談を知っていただきたい・・・ 学校の先生方へ 「講談」は「講釈」と呼ばれていました。それは江戸時代、字の読み書きが出来なかった庶民に、浪人などの知識人が「太平記」など歴史の本を解りやすく解説を交え、講釈をしながら読んで聞かせていたからです。 講談師が前に置く小机（＝「釈台」）には本来は本が置かれます。今でも演目の事を「読み物」と呼び、講談師（真打）を「先生」と呼ぶのは、その当時の名残なのです。講談師の祖先は、今の学校の先生みたいなものだったのです。 そして徐々に演芸として発達してゆきます。するとお客様が飽きない様に様々な工夫が施されました。物語には脚色が加えられ、語り方も講談調という独特の調子、「張り扇」を叩きながら話にメリハリを付けます。 こうして講談は時代、時代の人々に愛され、今に繋がれて来たのです。 講談には、日本人が持つ先人からの知恵、人を思いやる道徳心、そして日本語の美しさがあります。 「風化しつつある日本の大切なもの」・・・講談を通して学んでいただけます。 ～講談から実際にこんなことが学べます～ ・言葉の大切さ（相手に伝わる話し方） ・人と人との交わり方（友達・親子・先生と生徒） ・目上の人との接し方や、言葉の使い方 ・面倒を見るということの意味（弱者や困っている人を助けること）

	・講師を見ると、うちこの感染(特に中学生)が出ている人を排除すること ・作業も工夫をすれば、こんなに早く終わる などなど 子供たちがこのプログラムを通して講談の魅力を感じ、そしてまた観たいと思っていただけるよう、このプログラムがそのキッカケになればと願っております。
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	ワークショップでは少人数規模(学校)のよさを生かして、生徒さん全員が体験参加するより濃い内容となっています。 ワークショップでお稽古したことを、本公演で発表 一日のプログラムにつながりを付けています
出演者	＜講談＞　真打または二ッ目　3名 ※講談師は講談協会・日本講談協会・上方講談協会・なみはや講談協会・大阪講談協会・フリーより。 ※別添③参照

本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等訪問する業者人数含む	出演者:　3　名 スタッフ:　3　名 合　計:　6　名	**運搬**	積載量:　1　t 車　長:　5.3　m 台　数:　1　台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時～12時	13時30分～15時	10分	～17時	17時
	※ワークショップを同日開催する場合は、上記仕込み時に実施					

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月
	20日	14日	9日	19日	22日
	11月	12月	1月	計	137日
	20日	18日	15日		
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	制限なし
		鑑賞人数目安	制限なし

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出やがわかる写真)

※採択決定後、國[illegible]体提図面等[illegible]細の提出をお願いします。

(図1)ワークショップ公演の様子。ワークショップではステージ上でなく、
フロアーに高座を設営いたします。
高さなどに境界を設けずに、より親しみをもって、
解説を聞いていただきたくための工夫です。

(図2)本公演の舞台セッティングが完了した状態。
寄席を再現した舞台はステージ上に設営をし、
臨場感たっぷりに鑑賞いただきます。
各学校のステージサイズに合わせ、調整しながら
設営をいたします。

【公演団体名　有限会社　貞水企画室　】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	制限なし
ワークショップ実施形態及び内容	※別添④参照		
ワークショップのねらい	～自然に馴染めるように～ 各項目でポイントを絞り、講談がどんな芸能なのか？ プログラム全体をとおして自然に、講談を知り、そして親しめる仕組みとなっています。 様々な角度からアプローチします。テンポよく飽きずにお楽しみいただける工夫を施しています。 ○興味を持たせる ・張り扇の作成…自前で作成する事で講談への興味を高める ・全員で生徒さん自前の張り扇を叩く ○楽しくご鑑賞いただけるように ・若手3名が、それぞれの特徴を生かし賑やかに進行 ○理解をさせる ・朗読と比較して講談の特徴を解説 ・随所に実演を交えながら解説 ○関心をさせる ・講談調の迫力の語り、プロの技を体感 ・学校エピソードを即興で仕立てられた講談で聴く （講談がどうやって創られるのか解説） ○表現力を高める ・講談で自己紹介→手を上げた生徒さんは皆の前で発表		

その他ワークショップに関する特記事項等	ワークショップと前後の事前・本公演プログラムが繋がっています。 ＜事前＞「張り扇」の作成　動画DVD鑑賞 ⇓ ＜WS＞お稽古（体験・創作）※自作の張り扇を使用します。 ⇓ ＜本公演＞発表　※お稽古の成果を発表 ワークショップでは体育館フロアーに高座を設置します。 ・より身近な距離感で親しんでいただけるように。 ・講談お稽古ではフロアーを3ブロック分け、グループごとでお稽古を行います。 ※別添④参照

本事業への申請理由　【公演団体名　有限会社　貞水企画室　】

本事業に対する取り組み姿勢、および効果的かつ円滑に実施するための工夫	①本事業に対する取り組み姿勢 伝統話芸・講談の普及 講談は落語とならび日本の伝統二大話芸と称されています。 この二つの伝統話芸には日本人でこそ味わえる人情の機微、慣習、季節感などが溢れています。そして日本の国でなければ、日本語でなければ生まれ発展しなかった芸能だとおもいます。この魅力を知ればきっと日本人で生まれてよかったと感じられることでしょう。 ただ残念なことに講談は落語と比べても認知されていないのが現状です。 格調高い語り方や、史実に基づく内容が「難しいそう」と思われてしまうのでしょう。 難しい本を分かり易く解説（講釈）を交えて、噛んで含めるように読んで聞かせたのが講談の最初。それが芸能へと発展していく中で物語はより劇的な脚色を加えられ、演じ方も聴き心地のよい講談調という独特の語り口に、張り扇をパンパンと叩きながら話にメリハリをつけてお客様が楽しめるよう様々な演出が成され今に至るのです。明治時代までは講談が庶民の娯楽の中心にあったことからも解る様に、講談はけっして難しい芸能ではないのです。 故・一龍斎貞水は「伝統を守るということは、先人から受け継いだ芸をただ上手に演ずることだけではだめ、その時代の人（お客様）に受け入れらえてこそ本当に芸を守ったことになる」とよく言っていました。 講談は今でも時代の求めに応じて変化しています。 当プログラムも講談に初めて出会う生徒さんに自然に親しんでいただけるよう、様々な工夫が凝らされています。 余計な先入観のない感受性豊かな子供たちに今、この世界にも誇れる素晴らしき伝統話芸・講談をお楽しみいただき、先の人生の喜びの糧の一つになればと願います。 ●講談から「人」を学んでほしい 　人情の機微、人の善悪、人と人との繋がり、日本人が大事にしてきた美徳や道徳観。風化しつつある大切な事が講談にはたくさん詰まっています。講談からあるべき人のすがたを知れます。 ●講談から「正しい日本語」「美しい日本語」を学んでほしい 　講談調とは聴き心地のよい独特な七五調のリズミカル。講談から正しい日本語、そして美しい日本語の響きを知れます。 ●講談から「積極性」を身につけてほしい 　講談発表を終えた実績校では、「内気な生徒が代表に選ばれましたが、その際意欲的に練習し、自信がついたようで、明るくハキハキと発言するようになった」「小さかった声の生徒が大きな声を出せるようになった」などのお声をいただきました。この事業を通じて生徒の積極性を養い、人前で表現する自信をつけてもらいたい。 ☆プログラムの目的は　～「また観てみたい」と思っていただけるように～ 　前述した魅力や学んでほしいことは、一度の公演（出会い）ですべて理解し入れることは不可能です。これは講談に限ったことではないと思います。何度も触れることによってその魅力を知り、深みが増していくものです。 公演後に「面白かった」→「また観てみたい」と思っていただけるようにする。そこに当プログラムは重点を置いています。公演終了後、生徒さん方から「楽しかった」「迫力があった」「怖かった」など手応えを感じるお声を多数いただいています。

	②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 ○学校公演を中心に講談普及活動を年間30～70本のペースで十数年にわたり取り組んで参りました。その経験を生かして対応します。 ○本物の芸に触れてほしい 本物の芸に理屈はありません。ただ圧倒的な説得力があるものです。 心に残り続けるほのかな余韻は、その芸に触れた人だけが知る至高の贅沢。 ○本物の舞台（ハード）を設営 良いものにはしっかりと衣をつけ、さらに良いものとする。 本格的な寄席舞台を設営いたします。

C区分で事業を実施するに当たっての工夫　【公演団体名　有限会社　貞水企画室　】

C区分で事業を 実施するに当たっての工夫	ｉ)離島・へき地等における公演実績 平成21年度　本物の舞台芸術体験事業 北海道 上ノ国中学校 青森県　八戸市立青潮小学校・青森市立浅虫中学校 秋田県　三種町立森岳小学校・湯沢市立湯沢西小学校 岩手県　奥州市立衣川中学校 宮城県　気仙沼市立階上中学校・石巻市立貞山小学校・東松島市立矢本東小学校・美里町立南郷中学校・仙台市立八乙女中学校 平成22年度　本物の舞台芸術体験事業 宮城県　日南市立油津中学校・西都市立三財中学校・延岡市立北方小学校・延岡市立熊野江小学校・延岡市立島野浦小学校 大分県　竹田市立宮城台小学校 鹿児島県　大島郡喜界町立第一中学校・西之表市立安城小学校 沖縄県　宜野湾市立嘉数小学校 平成23年度　本物の舞台芸術体験 大分県　由布市立川西小学校 宮城県　延岡市立川島小学校 鹿児島県　鹿児島市立星ヶ峯中学校 平成24年、25年度　関東近郊 平成26年度　子供のための文化芸術体験事業 兵庫県　淡路市立佐野小学校 愛媛県　南宇和郡一本松中学校・八幡浜市立千丈小学校・大洲市立平小学校・西条市立庄内小学校・西条市立石根小学校 徳島県　久西郡藍畑小学校・徳島市立入田小学校・阿波市立御所小学校・美馬郡太田小学校・美馬市立江原北小学校 平成27年度　子供のための文化芸術体験事業 福井県　あわら市新郷小学校 石川県　加賀市立庄小学校 新潟県　加茂市立加茂中学校 富山県　富山市立倉垣小学校・富山市立針原小学校 平成28年度　子供のための文化芸術体験事業 北海道　奥尻町立青苗小学校 青森県　八戸市立日計ケ丘小学校・弘前市立東目屋中学校 秋田県　八峰町立八森小学校・由利本荘市立鳥海中学校・羽後町立高瀬小学校 宮城県　角田市立金津中学校・柴田町立西住小学校・仙台市立向山小学校・登米市立留目中学校 岩手県　北上市立北上北中学校・一関市立清田小学校 平成29年度　大阪関西近郊 平成30年度　子供のための文化芸術体験事業 山口県　下関市立角島小学校 広島県　呉市呉中央小学校・広島市立阿戸中学校・府中市立旭小学校・尾道市立瀬戸田中学校 令和3年度　文化芸術による子供育成総合事業 石川県　能美市立粟生小学校・玉洲市立直小学校 富山県　氷見市立十三中学校・魚津市立東部+西部中学校 令和4年度　文化芸術による子供育成推進事業 宮城県　気仙沼市立九条小学校 秋田県　鹿角市立八幡平中学校 北海道　名寄市立風連中学校 岩手県　久慈市立久慈湊小学校

	ⅱ）離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や，小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫 出演者を3名にとどめたが、江戸、上方、女流と異なる芸風の異なる出演者を配し、変化に富んだ番組を構成。また学校公演に多く参加してきたメンバーで構成されています。より優しく丁寧に進行します。 舞台装置は本格的な寄席舞台ながらパネル式のため機動力に富み、照明機材・音響機材の含め一台のワゴン車に積載が可能。 ⅲ）C区分申請における、小規模な公演の観点から実施する経費削減等についての工夫 舞台装置は1台のワゴン車で移動

リンク先	No.2	【公演団体名	有限会社　貞水企画室	】

本公演演目

別添❶

本公演

講談はじめ亭

講談鑑賞＆発表会

本公演ではプロの演技と発表会。講談をたっぷりとご体感いただきます。

※ワークショップ⇒本公演のつながりに工夫が凝らされています。

プログラム 75 分

1、講談入門　其二
2、講談発表会
3、連続講談（模写）
4、学校ニュース講談
5、上方講談
6、怪談

1、講談入門　其二

主に講談の舞台機構について解説

講釈場を再現した雰囲気たっぷりの舞台（高座）の中で、講談専用の劇場（寄席）である講釈場の説明をします。

2、講談発表会

ワークショップで分かれて行った
グループでお稽古から、
各グループの代表生徒さんによる発表

ワークショップでお稽古した成果をここで見せよう！

本公演演目	3、連続講談（後半） ワークショップの連続講談、その続きから結末まで さて、この後どうなることか この後が、面白くなるところですが… 講談の本来の姿であり醍醐味である連続物を、ごくごく短い読み物で実演 ワークショップ（前半） いいとこで切る！ つづきはいかに！ 本公演（後半） さて、いよいよ 相まみえる事になりました二人 4、学校ニュース講談 公演当日の朝、学校のエピソードを取材し本公演までに講談をつくりご披露します 講談師は今も昔も新作や創作講談を作るときは現地に赴き、面白そうな出来事を詳しく調べ（取材）、それを本におこし（脚本）、脚色を加え（演出）、自身で演じて（演者）います。 取材の役 そこで起こった出来事（事件など）を調べる 脚本家の役 それを台本に起こして（書いて） 演出家の役 そこで面白くなるよう演出を加え 演者の役 それを自分で演じる 今からお聞きいただくお話は、“今日の朝”取材し、たった今出来上がったこの学校の講談です！ ※こうして初めから最後まで全ての役を一人でこなします 5、上方講談 大阪ならではの賑やかなでおかしな講談 6、怪談 夏はお化け、冬は浪士の講釈師 といわれるように怪談は講談のお家芸 ちょっと怖～いお話

リンク先	No.2	【公演団体名	有限会社　貞水企画室	】

演目概要

別添❷

講談はじめ亭とは

ワークショップ「講談教室」　本公演「講談はじめ亭」

出演：講談協会・日本講談協会・なみはや講談協会・上方講談協会・大阪講談協会・フリーより

講談界初の人間国宝・故一龍斎貞水の発案をもとに企画構成されております。

講談とは...

釈台と呼ばれる小机を張り扇で
パンパンと叩いて調子をとり、
独得の七五調で物語を語る、これが講談です。

故一龍斎貞水【人間国宝】

講談を演じることを「読む」といいます。
これは本来、釈台の上に本を置いて読む事を由来としています。
また演目は「読み物」といいます。
読み物の題材は、主に歴史上で実際にあった出来事や人物。
それをそのまま語るのではなく、聞き手が楽しめるよう、
史実をもとに壮大な脚色を加えてゆきます。
江戸の時代から今に至るまで、庶民の娯楽として脈々と生き続けてきました。
講談は日本が誇る伝統話芸です。

事前から当日までの流れ

事前

・張り扇をつくろう

※ワークショップで使用します。

「張り扇作り方」マニュアルを参考に
生徒さんが張り扇を作成

ご準備ご用意いただく物

・割り箸
・水のり
・段ボール
・白い紙（半紙）

・DVD「講談への扉」鑑賞

※公演後のおさらいとしてもご活用いただけます。

東京・日本橋にある寄席「日本橋亭」を
舞台に独自制作された動画です。
講談のイロハが学べます。

講談とは？
この動画を見れば講談の一通りを知る事が出来ます。

- 講談のルーツ
- 釈台と張り扇
- 高座（舞台）の裏側（楽屋の様子や前座さんの働き等）
- 読み物（講談の演目）ごとの読み方や演出

ワークショップと本公演は同日開催されます。

公演当日

ワークショップ　解説と体験　講談に慣れ親しむ

本公演　鑑賞　講談を体感

※ワークショップと本公演の詳細は別欄をご参照ください。　※ワークショップと本公演の開始時間は学校様とご相談の上で設定します。

A区分・C区分共通

別添

リンク先	No.2	【公演団体名	有限会社　貞水企画室	】

出演者

リンク先	No.3	【公演団体名 有限会社　貞水企画室 】

ワークショップ実施形態及び内容

別添❹

ワークショップ

講談教室

講談入門＆お稽古

ワークショップでは解説と体験を中心に進行。講談に慣れ親しんでいただきます。

プログラム 60 分

1、　講談入門　其一
2、　講談お稽古
3、　連続講談（前半）

「講談はじめ亭」
スタート

ごあいさつ代わりに
それぞれが、得意の講談を一節ご披露

講談はもとより江戸（東京）と上方（大阪）に存在しています。
また近年では多くの女流講談師が活躍しています。今や全体の半数以上を占めるようになりました。
それぞれの特徴を生かしながら、賑やかに進行して参ります。

1、講談入門　其一

実演を交えながら解説
さまざまな角度から講談とはなにか、
そしてその歴史について学んでいただきます

※本公演の講談入門・其二では釈場の舞台機構を中心に解説します。

❶ 講談の読み方（演じ方）

講談調の独特な語り方を朗読と実演比較します。また講談と並ぶ日本の二大話芸といわれる落語との違いも解説します。

ワークショップ実施形態及び内容	

ワークショップ実施形態及び内容	

② 語り方教室　全員でお稽古

先ずは大きな声でハッキリと読む

① 講談師がお手本を見せます。

② 全員で一行ずつ復唱してもらいます。

③ 手を挙げた生徒さんに高座でやってもらいます。

我こそは〇〇学校〇年〇組
リフティングにかけては誰にも負けぬ〇〇(名前)である
我と思わんものは尋常の勝負におよべ

ゲーム好きにかけては・・・

メダカの飼育にかけては・・・

など自由に
自分が得意なことを入れます。

※セリフをプロジェクターで

③ 語り方教室　グループでお稽古

講談調の抑揚をつけて読む

低学年・中学年・高学年の３グループに分かれてお稽古をします。
３人一組で講談の一説をやってもらいます。

＊中学校では学年ごとにグループ分けをします。

低学年
『水戸黄門』
・水戸黄門役
・助さん役
・角さん役

高学年
『修羅場』
・前半
・中盤
・後半

中学年　『義経と弁慶』　・義経役・弁慶役・（ト書き）役

各グループで代表の組を選んでもらいます。

お稽古の成果を、本公演で発表して頂きます。

3、連続講談（前半）

講談本来の姿といっていい連続講談
さらに講談の魅力に迫ります

※「海賊退治」「はろはろ天狗」「宮本武蔵」など

現代では一話読み切りが多いですが、講談は本来、連続物といって何席もあるものです。
あえて、面白くなるところで終わり、また次回に繋ぎます。現在の、テレビドラマみたいなものです。

宮本武蔵の場合

ワークショップ　※5分～10分

父親が厳流の使い手のために闇討ちにされた宮本武蔵。父親の仇を討つための唯一の技
「天狗昇飛び切りの術」を習うため、武芸の達人塚原卜伝を探し、乗鞍岳までやってくる。

「さあ、山中で突然聞こえてきた怪しの笛の音の正体は？
武蔵は無事卜伝先生に会い、天狗昇飛び切りの術を学ぶことができるのかどうか。
ここからが面白くなってまいりますが、残念ながらお時間となってしまいました。
この続きは本公演にて申し上げます。」

続きは本公演で　お楽しみに！

本公演　※5分～10分

（軽く前回のあらすじを言ってから）
「山中のあばら家にて出会った塚原卜伝に「天狗昇飛び切りの術を教えてくれ」と頼む武蔵。
「ではその前に腕前を試そう」と、これから武蔵と卜伝が木刀片手に勝負に及ぶ。」

～試合のシーン～（中で、ワークショップの際にやった所作クイズあり）

「見事、天狗昇飛び切りの術を習得いたしました武蔵、父親の仇、これより厳流の使い手、
佐々木小次郎と一騎討ちの勝負に及ぶ、これが、かの有名な厳流島の戦いとなるわけでございます。
宮本武蔵　鍋蓋試合の一席読み終わりでございます。」